

「おむすびミーティング」が産み出した成果事例！

清水寺境内への耐震型防火水槽の整備等について

～ 文化財とその周辺を守る防災水利整備の新展開 ～

京都市ではこのたび、全国初の取組である文化財とその周辺を守る防災水利整備事業の新たな展開として、「おむすびミーティング」での地域や清水寺の方々からの御提案を受け、清水寺境内に全国最大規模の耐震型防火水槽を整備する方針を決めました。

防火水槽から消火栓への送水には高低差を利用した自然流下方式を採用し、これにより、同程度の総事業費で、東山区清水地域における防火用水の貯水量が大幅に増加するとともに、清水寺門前から産寧坂近辺にかけ、消火栓の配備が可能となり、地域防災力を更に向上させます。

今後、平成22年度の完成を目指して整備を進めると同時に、地域ぐるみの「共汗」で防災力を強化し、世界の宝である文化財、市民の生命・財産を面的・広域的に守る防災水利事業を進めていきます。

記

1 整備の概要

清水寺境内に全国最大規模の耐震型防火水槽を整備し、周辺には、耐震性に優れた配水管や誰もが容易に使用できる市民用消火栓などを設置する。

(1) 耐震型防火水槽 【1基】

ア 規模

1,500^m級 … 25mプール5個分相当の水量を備えた全国最大規模の防火水槽

イ 設置場所（整備概要図を参照）

東山区清閑寺下山町の清水寺境内

… 子安の塔(本堂の約200m南側)の西。山林の一部を清水寺が無償で提供。

(2) 周辺設備（整備概要図を参照）

ア ポリエチレン製配水管

約1.5kmに及ぶ耐震性能を備えた配水管を設置する。総延長は、2km超となる。

イ 市民用消火栓、消防隊用消火栓

市民用消火栓27基（既設との合計41基）、消防隊用消火栓12基（既設との合計19基）を配備する。

(3) 整備の効果・メリット

◎ 貯水量の大幅増

清水寺の敷地提供により、新たな防火水槽は、当初計画（清水坂公園に500^mの防火水槽を設置）の3倍となる1,500^mもの大容量を確保できる。既設の防火水槽（高台寺公園地下に1,500^mの防火水槽を設置）と合わせて、清水地域の防火用水の貯水量は3,000^mを確保できる。

◎ 消火栓の効果的な配備

当初計画では難しかった清水寺門前から産寧坂近辺に配水管を通し、消火栓を効果的に設置するなど、守備範囲を拡大でき、地域防災力が更に向上する。

◎ 自然流下方式の採用による経費節減

防火水槽から消火栓への送水には、高低差を利用した自然流下方式を採用する。これにより、送水用の動力ポンプが不要となることなどから、防火水槽や配水管等の規模が大きくなるにもかかわらず、総事業費は変わらない。

◎ 万一のときのフェイルセーフ（※）の確保

地域の南北に防火水槽を1基ずつ備えることで、万一、1基にトラブルが発生した時のセーフティネットとなる。また、2つの防火水槽がいずれも大規模であること、異なる送水方式を採用していることにより、フェイルセーフが高まる。

（※）フェイルセーフとは、故障・誤操作等を想定して二重の備えをしておくなど、安全性確保のための設計思想をいう。

◎ 工事による影響の軽減

防火水槽の設置場所変更により、工事車両の通行箇所が国道1号線の五条東山ドライブウェイ山間部を通して清水寺へ入るルートに限られ、地域住民や大勢の観光客の皆様への影響を少なくできる。

（4）今後のスケジュール

平成20年11月	11月市会に補正予算を提案 当初計画を前倒しして、清水寺境内の防火水槽整備に着手
平成21年度	防火水槽の完成
平成22年度	配水管や市民用消火栓など周辺設備の完成

【参 考】 文化財とその周辺を守る防災水利整備事業の全体像

	当初計画	変更後の計画	充実点等	うち現在、 整備済み
①事業年度	平成18年度～22年度 (5箇年)	平成18年度～22年度 (5箇年)	変更なし	—
②総事業費	約10億円	約10億円		
③耐震型防火水槽	2基 高台寺公園 1,500m ³ 清水坂公園 500m ³ 貯水量合計 2,000m ³	2基 高台寺公園 1,500m ³ 清水寺境内 1,500m ³ 貯水量合計 3,000m ³	貯水量 +1,000m ³	1基 高台寺公園 1,500m ³
④送水用動力ポンプ (自家発電設備付)	2基	1基	・異なる送水 方式の採用 ・経費の節減	1基
⑤ポリエチレン製配水管	1,570m	2,060m	総延長 +490m	580m
⑥市民用消火栓	40基	41基	+1基	14基
⑦消防隊用消火栓	17基	19基	+2基	7基
⑧文化財延焼防止 放水システムの整備	1基	1基	変更なし	—
⑨地域に配備する防災器材 の購入, 防災訓練等の実施	○	○		